

# Comparison of 5-day MTX and 5-day ETP treatment results and early predictors of drug resistance to 5-day MTX in patients with post-molar low-risk gestational trophoblastic neoplasia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木崎, 尚子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032087">https://doi.org/10.20780/00032087</a>

## 主論文の要約

Comparison of 5-day MTX and 5-day ETP treatment results and early predictors of drug resistance to 5-day MTX in patients with post-molar low-risk gestational trophoblastic neoplasia

(臨床的侵入奇胎における 5-day MTX 療法および ETP 療法による治療効果と 5-dayMTX 療法における薬剤耐性の早期予測因子)

東京女子医科大学産婦人科学講座  
(指導：松井英雄教授)  
木崎 尚子

Gynecologic Oncology Volume 139, Issue 3, Pages 429-432  
(平成 27 年 12 月発行) に掲載

### 【目的】

メソトレキサート筋肉内投与 (5-day MTX) またはエトポシド点滴静注 (5-day ETP) 療法で治療を行った (臨床的) 侵入奇胎および奇胎後 hCG 存続症 (Low risk GTN) の単一薬剤による寛解率を比較し、更に初回治療で MTX 耐性となる因子を検討した。

### 【対象および方法】

1980 年から 2014 年の間に、5-day MTX 療法 (102 例) または 5-day ETP 療法 (64 例) で治療を開始した Low-risk GTN 症例における寛解率、薬剤変更率 (薬剤耐性・有害事象)、および再発率を比較した。さらに汎用される MTX 治療例では耐性獲得に影響を与える因子について分析した。

### 【結果】

MTX 及び ETP による単一薬剤による寛解率は各々 64.7% (66/102)、90.6% (58/64) であり 5-day ETP 群の寛解率は 5-day MTX 群に比較して有意に良好であった ( $P < 0.0001$ )。一方再発率は各々 2.0%、1.6% と差を認めなかった。

MTX 治療群では 23 例 (22.6%) が薬剤抵抗のため、13 例 (12.7%) が有害事象 (重篤な口内炎、肝機能障害、薬疹) のため薬剤変更となった。MTX 耐性のために薬剤変更となった 23 例とそれ以外の症例を比較すると母体年齢および転移の有無には有意差はなく、治療前 FIGO 高スコアおよび  $5 \times 10^4$  mIU/mL 以上のヒト絨毛性ゴナドトロピン (hCG) 値は、MTX 耐性を示した症例で有意差を認めた ( $P=0.0006$ ,  $P=0.003$ )。また、初回 MTX 化学療法中 1 週間当たりの hCG 減少率が 30% 未満であることが、MTX 耐性症例の早期診断に有用であることが示唆された ( $P<0.0001$ )。

#### 【考 察】

Low risk GTN は、MTX、アクチノマイシン D、ETP などの単剤化学療法によりほぼ 100% の寛解率となっている。ETP による寛解率は他の 2 剤に比較して良好であるが、二次性白血病の報告もあり、初回化学療法としては MTX 単独療法が選択されることが多い。しかし、レジメン変更は明らかな治療期間の延長をもたらし、QOL の低下の可能性が懸念されるため、MTX に対する薬剤耐性の予測因子を同定することは臨床上有用であると考えられる。

#### 【結 論】

初回 5-day MTX 療法中に 1 週間当たりの hCG 減少率が 30% 未満の場合、MTX 薬剤耐性に対する早期指標である可能性がある。